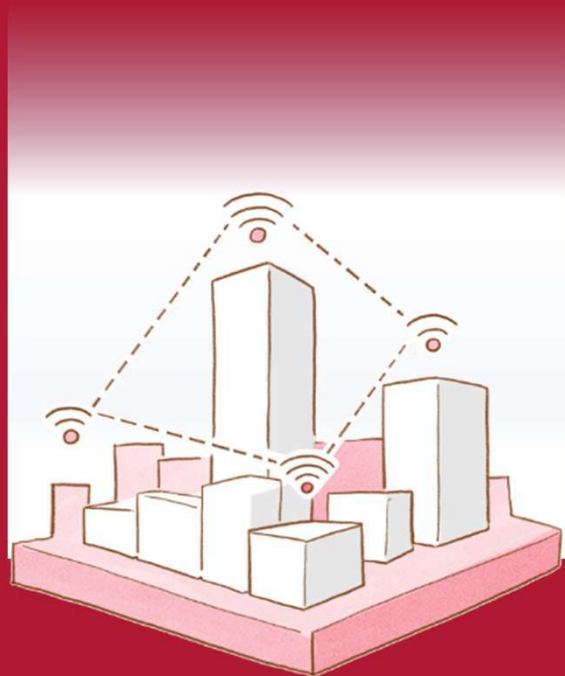


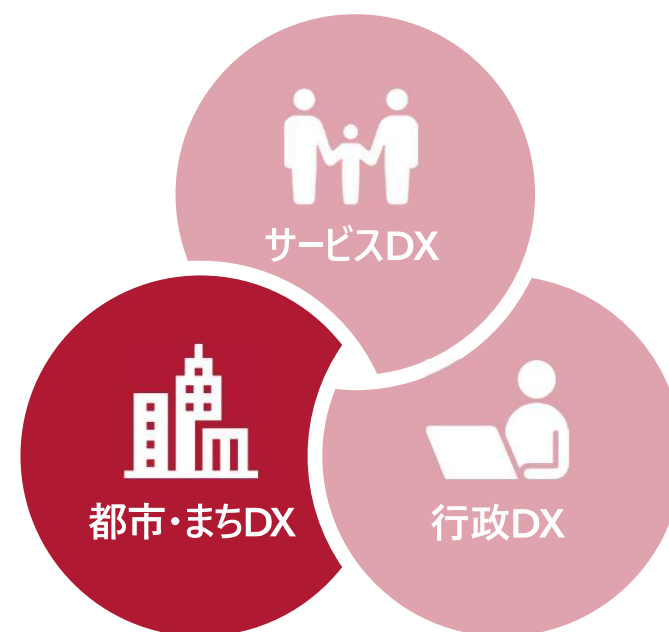
都市・まちDX



便利・安心・安全に暮らせる、 魅力・活力のあるまちの実現

IoT等により多様なデータを収集し、AI等のデジタル技術を活用して分析します。その結果を防災対策など社会や生活に反映し、便利・安心・安全に暮らせるまちの実現をめざします。

また、産学民との連携により、社会課題の解決やイノベーションの創出などによるまちの活性化を図るなど、都市力の向上をめざします。



アクションプランの取組一覧



便利・安心・安全に暮らせる、魅力・活力のあるまちの実現

#	取組名称	頁
1	淀川左岸線（2期）事業におけるメタバースの活用	49
2	公園・港湾施設緑化系維持管理業務を最適化	50
3	3D都市モデルによる可視化で各種データをまちづくりに活用	51
4	デジタルツインを活用したCO2削減モデル化による脱炭素化の推進	52
5	ドライブレコーダー映像データの利活用	53
6	市設建築物情報管理のシステム化による着実な維持管理の実現	54
7	防災・減災に向けた河川防災情報発信の高度化	55
8	ライブカメラを活用し連続高架橋の状態監視を高度化	56
9	3次元データを活用した建設生産プロセスの高度化	57
10	AIを活用した道路維持管理の効率化と計画的な維持管理の実現	58
11	新技術の導入で橋梁維持管理を効率化	59
12	AIを活用した特殊車両の違法通行対策及び申請許可業務の最適化	60
13	夢洲の道路・護岸のBIM/CIM化等による維持管理の高度化	61
14	建築分野の手続きをオンラインで便利に	62
15	新・港湾情報システム「CONPAS」の導入による物流労働力不足への対応を推進	63
16	AR技術等を活用した体験型環境学習の実施	64
17	AI等を活用し公共設計及び設計業務委託の予定価格の算出をより適正に	65

淀川左岸線（2期）事業におけるメタバースの活用

施策概要と効果

- ・淀川左岸線（2期）事業は、長期間、かつ、区間が長い工事であり、関係者（住民/国/工事関係者等）が多く、かつ、時期により変遷していく。そのため、協議等に時間を要する、また、複数回にわたるなど関係者に負担が生じている。
- ・メタバースを活用し、地元説明会に参加できない沿道住民や遠方の方への説明対応を行う。また、関係機関（国等）と完成形のイメージを共有することにより、より深く、スピーディに検討を行う。加えて、多くの事業者が参加する工事進行にあたるリアルタイムでの情報共有を行う。さらに、技術職員への技術研修用に仮想空間で施工体験等を行う。
- ・これらにより、研修資料作成の高度化と工数低減、大規模事業へデジタル活用のノウハウを継承など事業推進円滑化へ寄与する。

これまでの取組状況

- ・2024年度に、メタバース空間で活用する資料のデジタル化やコンテンツの一部を作成。
- ・2025年度に、メタバース空間の構築をほぼ完了。試行運用を実施。



施策のめざす姿

- ・メタバースを活用し、住民や関係機関等とのイメージ共有を行い、また、職員の技術力の向上が図れていること。

評価指標又は活動指標

- ①メタバースを活用した研修後のアンケートで理解度が深まったと回答した職員の割合
- ②市民等からの問合せ件数の縮減率

2025年度		2025年度末見込み	
①60%		①60%	
2026年度	2027年度	2028年度	
①80% ②20%	①80% ②40%	①80% ②40%	

取組スケジュール

項目	2026 → 2027 → 2028 →		
	人材育成/体制整備	研修での活用開始	→
サービス（市民/事業者）	試行運用	→	本格運用

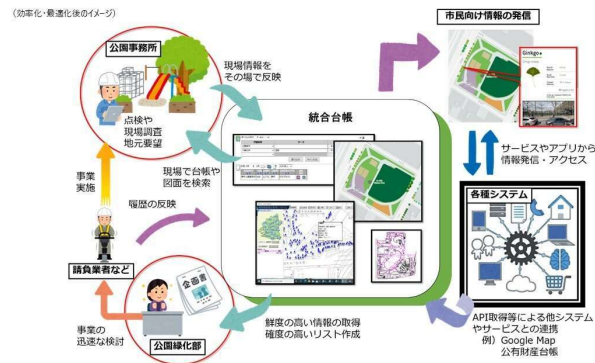
公園・港湾施設緑化系維持管理業務を最適化

施策概要と効果

- ・公園施設や臨港緑地の情報は紙資料で保存されており、情報の閲覧や検索に時間を要している。そこで、維持管理を全体最適化し、電子情報化を行い、オンラインで施設や樹木の一部を市民向けに発信することで、業務の効率化と情報提供の向上が期待され、市民が臨港緑地や公園、樹木に関する情報を簡単・気軽に知ることができる。
- ・施設や樹木のデータ（樹木の基本情報、i-Treeを用いた樹木が持つ価値、トイレ・遊具・広場といった情報など）をオープンにすることで、市民へ公園や臨港緑地を利用する際の情報の提供や港湾環境についても楽しく学ぶ機会の提供につなげる。
- ・公園や港湾施設の維持管理業務を最適化することで、市民がより安心・安全に施設等を利用できる状態をめざす。

これまでの取組状況

- ・2023年度に現行の維持管理に係る業務フローを業務最適化の観点から見直し、2024年度のシステム選定の結果、既存システムを改修する方針とした。
- ・これに伴い順次システム改修とデータ化を開始し、2025年度も改修を継続しつつ、樹木・施設情報のデータ化を行った。



施策のめざす姿

- ・公園や港湾施設の緑化系維持管理業務が最適化され、迅速な市民対応や施設・樹木に関する情報提供ができていていること。

評価指標又は活動指標

維持管理業務の最適化及び情報発信状況

2025年度現在	<ul style="list-style-type: none"> ・既存システムの改修、運用・検証 ・施設図面等及び公園施設等台帳のデータ化 ・情報発信手法の検討
2026年度	<ul style="list-style-type: none"> ・既存システムの改修、運用・検証 ・施設図面及び公園施設等台帳のデータ化 ・台帳更新及び情報発信手法の検討、一部試行運用・検証
2027年度	<ul style="list-style-type: none"> ・既存システムの改修、運用・検証 ・台帳の更新手法の検討 ・情報発信手法の検討、一部試行運用・検証
2028年度	<ul style="list-style-type: none"> ・既存システムの改修、運用・検証 ・台帳の更新手法の検討、一部検証 ・情報発信の実施、検証

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
システム改修	既存システム改修の実施 試行運用・検証	→	→
データ化	公園基礎情報 臨港緑地施設図面等	→	→
情報発信	試行運用・検証	→	→

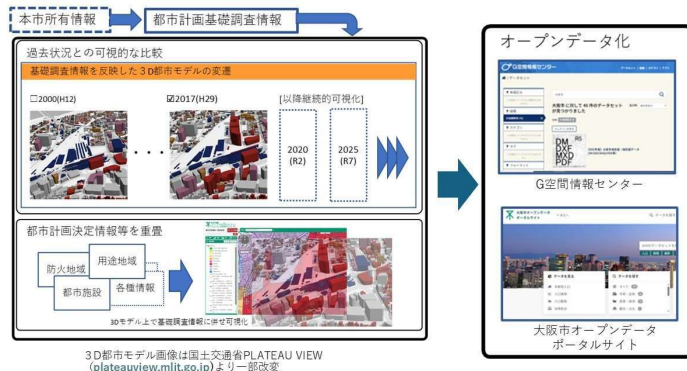
3D都市モデルによる可視化で各種データをまちづくりに活用

施策概要と効果

- ・本市が持つ都市計画基礎調査情報や都市計画決定情報など、まちづくりの検討や分析に資するデータについて、3D都市モデルにより可視化し、官民双方において活用できる環境の構築をめざす。
- ・具体的には、庁内で3D都市モデルを活用するためのシステムを構築するとともに、3D都市モデルやそれに重ね合わせるデータを作成・更新することにより、まちづくりに関する検討やシミュレーション等に活用する。
- ・また、市民や民間事業者が3D都市モデルを閲覧し活用できるようなビューワを整備し、運用開始後はビューワの閲覧回数などにより3D都市モデルの活用状況を評価する。

これまでの取組状況

- ・2025年度に3D都市モデルのビューワを整備し、3D都市モデル及び都市計画基礎調査にかかる更新・新たな調査手法を確立した。



施策のめざす姿

- ・使いやすい環境で提供する3D都市モデルが活用されることで、官民双方において本市の特性を活かしたまちづくりが進められていること。

評価指標又は活動指標

2025年度中に環境を構築し、2026年度運用開始。
運用開始後、ビューワの閲覧数を確認することで活用状況を把握する。

2025年度現在	環境構築
2026年度	・会議等で3D都市モデルの活用を検討した部局が3部局 ・外部用のアクセス数が、令和6年度のマップナビおおさかの土地利用情報閲覧者数以上
2027年度	・3D都市モデルを活用した職員によるシミュレーションの実施やユースケース開発が2件 ・外部用の利用者数について、前年度の利用者数以上
2028年度	2027年度までの状況を踏まえて設定

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
3D都市モデルビューワ(内部用)	まちづくり等の検討で活用	モデルデータの全面更新及びまちづくり等の検討で活用	→
3D都市モデルビューワ(外部用)	市民等による利用	モデルデータの全面更新及び市民等による利用	→

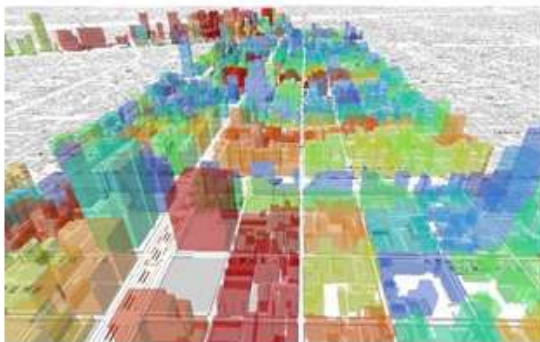
デジタルツインを活用したCO2削減モデル化による脱炭素化の推進

施策概要と効果

- ・本市は「ゼロカーボンおおさか」の実現に向けて取組を進めており、特にオフィスビル等の業務部門におけるCO2削減が大きな課題となっている。
- ・オフィスビルは、これまでに省エネ機器の導入や照明のLED化等により、CO2削減が図られているが、建替え時にZEB化や、空調機の更新などにより大幅なCO2削減が期待できる。
- ・国土交通省のPLATEAUを活用することで、3D都市モデルを作成し、将来のCO2削減シミュレーションを行い、その結果を公表することによって、オフィスビル所有者や関係者のさらなる行動変容を促すほか、「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕」に、シミュレーション結果を活用することにより、本市や事業者の取組のCO2削減にもつなげる。

これまでの取組状況

- ・2024年度末に、国土交通省のPLATEAUを活用した3D都市モデルを作成するとともに、将来のCO2削減シミュレーションを行い、その結果を公表した。



3D都市モデルを活用したCO₂排出量シミュレーション結果

施策のめざす姿

- ・CO2排出量の見える化、CO2削減に向けた将来像のシミュレーションを示すことで、事業者の取組を促進させ、2030年度までに温室効果ガス排出量を50%削減（2013年度比）をめざしている。

評価指標又は活動指標

シミュレーション結果公表掲載HPのView数

2025年度		2025年度末見込み	
200回/月		200回/月	
2026年度	2027年度	2028年度	
200回/月	200回/月	200回/月	

取組スケジュール

項目	2026 → 2027 → 2028 →		
	オープンデータ化	シミュレーション結果の応用	→

ドライブレコーダー映像データの利活用

施策概要と効果

- ・ごみ収集車両の運行管理システムを機能拡充し、位置情報の精度向上とドライブレコーダー映像のリアルタイム取得をめざす。これにより、ごみ収集車両の映像データを利用して収集状況の確認や道路・街路樹の管理、災害発生前の状況把握などへの活用を進める。
- ・映像データを利活用できる業務のさらなる拡充に取り組むなど、市民サービスの向上と安全・安心のまちの実現に貢献する。

これまでの取組状況

- ・2023年6月から「ごみ収集車両運行管理システム」の機能拡充に向けた開発と本市仕様へのカスタマイズを行い、2024年4月より「ごみ収集車両運行管理システム」を5業務で活用開始し、運用を行っている。



施策のめざす姿

- ・ごみ収集車両のドライブレコーダー映像が多様な業務に活用されていること。

評価指標又は活動指標

ドライブレコーダー映像を利活用している、または活用検証している業務数（累計）

2025年度		2025年度末見込み	
5業務		5業務	
2026年度	2027年度	2028年度	
5業務	5業務 ※26年度の状況を踏まえて設定	5業務 ※27年度の状況を踏まえて設定	

取組スケジュール

項目	2026 → 2027 → 2028 →		
	対象業務における活用	対象業務における活用	→
対象業務の課題整理・検討	活用状況を踏まえ、課題整理・今後の活用検討	→	→
他事業への活用検討	他事業への活用検討	→	→

市設建築物情報管理のシステム化による着実な維持管理の実現

施策概要と効果

- ・市設建築物の各工程で担当部署が異なるため、情報管理が工程ごとに分断されていること、また、複数のシステムでそれぞれ情報を管理していることから、市全体での情報共有ができていない。
- ・そこで、「（仮称）市設建築物情報管理システム」を新たに構築し、設計から維持管理までの一元的なデータ活用を促進することで、公共施設の機能維持向上をめざす。
- ・また、将来的には、バックオフィスとの連携機能を追加し業務効率化をめざすとともに、BIM運用機能の追加を検討する。

これまでの取組状況

- ・2025年度：全体計画作成。

全体のイメージ



施策のめざす姿

- ・（仮称）市設建築物情報管理システムによる市設建築物の着実な維持管理を実現すること。

評価指標又は活動指標

全体計画及び実行計画に従い、2029年度の運用開始をめざしてシステム開発を実施。

2025年度現在	全体計画の作成、実行計画の作成
2026年度	システム開発仕様書の作成
2027年度	前年度の状況を踏まえて設定
2028年度	前年度の状況を踏まえて設定

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
システム構築	要件定義・仕様書の作成	システム設計	システム開発

防災・減災に向けた河川防災情報発信の高度化

施策概要と効果

- ・本市管理河川の情報（水位・カメラ映像等）を監視することにより河川の状況を早期に把握し河川氾濫等災害に備える。
- ・本市管理河川の情報（水位・カメラ映像等）を直接河川に行くことなく、大阪府HPからリアルタイムで確認できるようにすることで、河川氾濫等災害時の安全・安心の確保を推進する。

施策のめざす姿

- ・水位・カメラ映像を監視し、河川の状況を把握することで、水防時の円滑な情報共有ができていていること。
- ・市民が自発的に水位・カメラ映像を取得し、河川氾濫等災害への備えに活用できていること。

評価指標又は活動指標

本市管理河川の情報（水位・カメラ映像等）を大阪府HPに国や府の管理河川と併せて2026年度より公開する。

これまでの取組状況

- ・2025年度：システム構築
大阪市HP先行公開（試験運用）

カメラ画像表示イメージ



現在の河川状況



平常時の河川状況

2025年度現在	監視設備の試験運用・一般公開に向けたシステム構築
2026年度	一般公開に向けたシステム構築・一般公開の開始
2027年度	本格運用
2028年度	本格運用

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
河川監視設備の設置	運用	→	→
河川情報の一般公開	システム構築 一般公開	一般公開	→

ライブカメラを活用し連続高架橋の状態監視を高度化

施策概要と効果

- ・新御堂筋線高架橋に遠方監視が可能なライブカメラを設置し、管理業務の効率化を図る。あわせて、カメラ映像のAI分析により道路上の落下物等の異常を早期発見し、迅速な初動対応と道路情報板等による情報提供を行うことで、二次被害の防止や渋滞緩和を図り、市民の安心安全を確保する。
- ・ライブカメラ映像を市民に公開することで、オープンデータ化を進め市民サービスの向上を図る。

施策のめざす姿

- ・新御堂筋を遠方監視し、AI映像分析により落下物等の道路異常を早期検知し、迅速な初動対応の実施と業務の効率化がなされていること。
- ・ライブカメラ映像や道路情報板による情報公開により二次被害の防止や渋滞緩和につながり、市民の安心安全を確保すること。

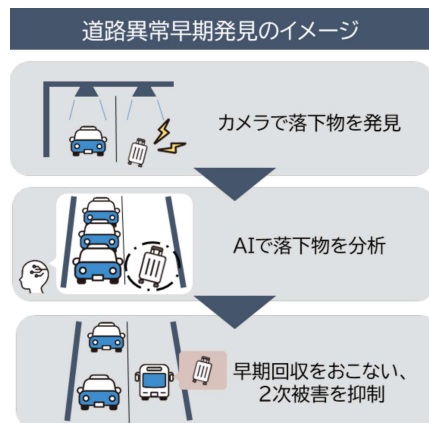
評価指標又は活動指標

- ・新御堂筋を遠方監視して交通状況を把握し、業務の効率化を実現。
- ・カメラ映像をAI分析し道路異常を早期発見、情報板へ即時発信する仕組みで、二次被害抑制と渋滞緩和を図り、市民の安心安全を確保。

2025年度現在	—
2026年度	<ul style="list-style-type: none"> ・対応方針決定 ・カメラ設置及びシステム設計検討
2027年度	<ul style="list-style-type: none"> ・実証実験（設計検討の中で評価基準を決める） ・カメラ設置計画策定及び設置に向けた設計
2028年度	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ本格設置及び効果検証 ・設置範囲拡大に向けた検討

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
カメラ設置、AIおよび情報公開のシステム	概略検討	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ設置に向けた詳細設計 ・実証実験・検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ本格設置 ・検証結果に基づく設置範囲拡大検討



3次元データを活用した建設生産プロセスの高度化

施策概要と効果

- ・人口減少に伴う本市職員及び現場作業員のさらなる減少を見据え、都市インフラ施設の老朽化対策や自然災害への備え等、様々な課題に対応し、「安心・安全に暮らせる、魅力・活力あるまちづくり」を推進していくためには、3次元データの活用等、都市インフラの維持管理の早急な効率化が不可欠である。
- ・現状としては、本市の地域特性（概ね市域全域が市街地）により、大規模工事が少ない等、様々な要因により、3次元データの活用が進んでいない状況である。
- ・3次元データ活用の推進には、課題の整理や事例調査等により、有効的な活用方法やその効果の調査・検討が必要である。
- ・このため、より高度な都市インフラの整備・維持管理の実現に向け、本市の業務・地域特性をふまえた3次元データの活用方法の検討を実施し、建設生産プロセスの高度化をめざす。

これまでの取組状況

- ・2025年度より3次元データの活用に向けた調査・検討を実施



(参考イメージ)先行検証事例：夢洲北高架橋、夢洲南高架橋、舞洲東高架橋

施策のめざす姿

- ・都市インフラが効率的かつ高度に整備・維持管理されることにより、市民が安心・安全に生活できる都市基盤が整えられていること。

評価指標又は活動指標

3次元データを活用した建設生産プロセスの高度化に向けた取組の推進

2025年度現在	3次元データ活用に向けた調査・検討を実施
2026年度	3次元データ活用に向けた実施要領やガイドライン等の検討
2027年度	2025年度・2026年度の検討結果をふまえ設定
2028年度	2025年度・2026年度の検討結果をふまえ設定

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
3次元データの活用検討	3次元データ活用に向けた実施要領やガイドライン等の検討	検討結果を踏まえて今後の活用検討	→

AIを活用した道路維持管理の効率化と計画的な維持管理の実現

施策概要と効果

- ・本市管理道路は、市域の約15%を占めるほどの面積があり、その膨大な面積を安全かつ安心して利用し続けられるように、区画線の効率・効果的な維持管理を求められている。
- ・区画線維持管理業務の高度化・効率化を図るためにも、ドライブレコーダーの映像データ等を活用し、区画線の損傷度判定などをAI解析にて行う。
- ・これにより、区画線の損傷度などを定量的に判定するなど維持管理の高度化を図り、補修する優先順位の優劣を効率的に判断することで効率化を図るとともに計画的な維持管理につなげていく。

これまでの取組状況

- ・2024年度にドライブレコーダーの映像データ等を活用した区画線の損傷度判定をAI解析し、解析結果検証を行った。
- ・2025年度に市内管理道路における区画線のAI解析及び検証を実施し、データ蓄積を行った。



施策のめざす姿

- ・区画線維持管理業務の高度化・効率化が図られ、管理道路を安全かつ安心して利用し続けられること。

評価指標又は活動指標

維持管理業務を効率・効果的に実施することで、計画的な維持管理ができていくこと。

2025年度現在	市内管理道路における区画線のAI解析及び検証を実施し、データ蓄積
2026年度	市内管理道路における区画線のAI解析を継続し、データ蓄積
2027年度	市内管理道路における区画線のAI解析を継続し、データ蓄積したデータを基に経年劣化及び補修サイクルを予測
2028年度	経年劣化予測に基づき、市内管理道路における区画線のAI解析及びデータ蓄積

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
AI解析及びデータ蓄積	実施	→	→

新技術の導入で橋梁維持管理を効率化

施策概要と効果

- ・本市管理橋梁は、5年間で全橋の定期点検を実施し、損傷度の把握および健全度の評価を行っているが、長大橋はロープアクセスや大型橋梁点検車による点検が中心で、多くの時間とコストを要している。
- ・2024年度に長大橋等で飛行型ドローンを用いた最適な点検手法等の検討を行い、結果を基にマニュアルを改訂した。2025年度以降は改訂後のマニュアルに基づき、定期点検が一巡する5年間、新技術を用いた点検を実施し、コスト検証・結果に基づく改訂検討により、点検時間・コストの削減を図る。加えて、飛行型ドローン以外の新技術活用も検討する。
- ・2026年度には、AI技術を活用した画像診断の導入に向けて試行適用を行い、損傷度把握や健全度診断の高度化を図ることで、さらなる橋梁の安心・安全の確保が期待される。

これまでの取組状況

- ・2024年度から、新技術（ドローン等）を用いた橋梁点検を行い、コストメリットを検証している。
- ・2025年度にAI技術を活用した画像診断の検討を行い、試行的な適用に向けて調整を行った。



ロープアクセス



大型橋梁点検車



ドローン

施策のめざす姿

- ・新技術（ドローン等）を導入して効率的な点検を実施するとともに、画像診断など高度な損傷度の評価や健全性の診断による橋梁の安心・安全が確保できていること。

評価指標又は活動指標

- ①新技術（ドローン等）導入により、作業時間や点検コストを削減
- ②AI技術を活用した画像診断により、橋梁健全度評価を高度化

2025年度現在	①定期点検にて作業時間や点検コストの削減効果を確認 ②損傷程度診断へのAI技術導入可能性を確認
2026年度	①定期点検にて作業時間や点検コストの削減効果を検証、飛行型ドローン以外の新技術の活用検討 ②導入に向けて試行的な適用を実施
2027年度	①前年度までの取組内容をふまえた点検マニュアルに基づく定期点検にて削減効果を検証 ②導入に向けて試行的な適用を実施
2028年度	①前年度までの取組内容をふまえた点検マニュアルに基づく定期点検にて削減効果を検証 ②導入に向けて試行的な適用を実施

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
新技術導入	点検マニュアルに基づき定期点検を実施	→	→
AI診断導入	既に製品化されているAI技術を用いた試行実施	既に製品化されているAI技術の本格導入	-

AIを活用した特殊車両の違法通行対策及び申請許可業務の最適化

施策概要と効果

- ・道路は一定の寸法や重量を超える車両は、原則通行できないが、やむを得ず通行が必要な場合、車両構造等を審査し、条件付で車両の通行を許可する『特殊車両通行許可制度』がある。
- ・無許可の車両は、道路構造物に損傷を与える可能性があるため、適正な申請を促すべく特殊車両の取締りを実施する。
- ・走行車両を撮影した画像から、AIを用いて寸法を基準に特殊車両を識別し、当該車両の車両番号を国の保有する許可情報と突合・実態調査のうえ、無許可等の場合は行政処分を行う。
- ・許可申請業務において、大阪市特殊車両通行許可オンライン申請システム（以下、「特車システム」という。）の開発・運用を行い、取締り強化に伴う申請件数増加に対応するとともに、許可証のオンライン発行など申請者の利便性向上を図る。

これまでの取組状況

- ・2024年3月にAIによる解析システムを開発し、取締り場所を選定。
- ・2024年7月より、特車システムの開発に着手。
- ・2025年3月に指導取締り処分基準を改正。
- ・2025年9月にカメラ管理規程を制定。



撮影イメージ

施策のめざす姿

- ・特殊車両通行許可制度がより広く認知され、当該制度を遵守する意識が事業者に根付いていること。

評価指標又は活動指標

- ①特殊車両の申請許可業務の標準処理時間
- ②人的及びAI取締り回数（年間）
- ③取締り車両数／特殊車両通行許可制度啓発事業者数

2025年度		2025年度末見込み	
<ul style="list-style-type: none"> ・許可業務：アプリ開発 ・人的及びAI取締り：年間5回 		<ul style="list-style-type: none"> ・許可業務：アプリ開発 ・人的及びAI取締り：年間5回 	
2026年度	2027年度	2028年度	
<ol style="list-style-type: none"> ①4週間 ②年間8回 ③50台/25社 	<ol style="list-style-type: none"> ①4週間 ②年間8回 ③50台/25社 	<ol style="list-style-type: none"> ①4週間 ②年間8回 ③50台/25社 	

取組スケジュール

項目	2026 → 2027 → 2028 →		
	AIによる取締り	実施	→
特殊車両の申請許可業務の最適化	特車システムによる申請受付	→	→

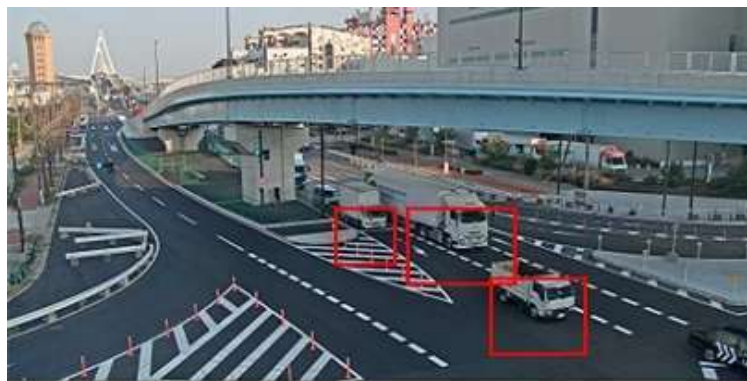
夢洲の道路・護岸のBIM/CIM化等による維持管理の高度化

施策概要と効果

- ・夢洲において整備が進む道路等インフラ施設について、デジタル技術を活用して、夢洲の地盤・構造物のデータ化等に取り組み、維持管理（予防保全）の高度化につながる手法を検討する。
- ・3次元データ化等デジタル技術の活用、維持管理の高度化が実現され、より安全・安心なまちづくりに寄与する。

これまでの取組状況

- ・2024年度：基盤となる主要な道路・埋設管等の3次元データを作成。維持管理に必要な道路情報の収集方法の検討。
- ・2025年度：インフラ情報プラットフォーム構築を開始。



ライブカメラの映像（舞洲車交差点）

施策のめざす姿

- ・主要な道路等の3次元データ化等デジタル技術の活用により維持管理の高度化が図られていること。

評価指標又は活動指標

3次元データ等による維持管理を行うことで経年変化が見える化され、道路管理等職員の業務効率化及び道路利用者の安全性向上に寄与すること。

2025年度現在	インフラ情報プラットフォームの構築、AI等を活用した道路情報の収集方法の決定及び分析システムの開発に着手
2026年度	インフラ情報プラットフォームの構築 AI等を活用した道路情報の収集方法及び分析システムの開発
2027年度	インフラ情報プラットフォーム上での検証
2028年度	インフラ情報プラットフォーム上での検証

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
3次元データの活用	インフラ情報プラットフォームの構築	インフラ情報プラットフォーム上での検証	→
道路情報の収集	道路情報収集の実施	維持管理への活用	→

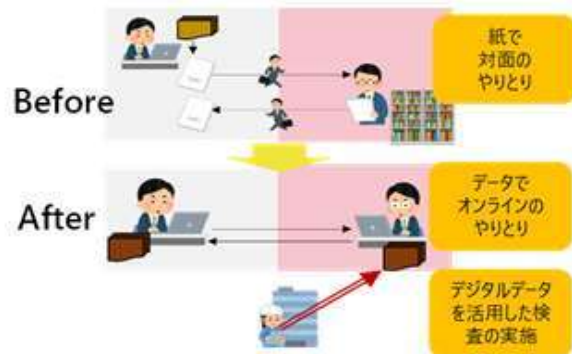
建築分野の手続きをオンラインで便利に

施策概要と効果

- ・ 建築確認等の建築分野の行政手続きにおいて、現行、紙で行われている図面等の申請・届出関係の書類提出を大阪市行政オンラインシステムや国のシステムを活用してオンライン化することで、市民や事業者の費用・労力の削減及び利便性の向上と業務効率化による職員の負荷軽減を図る。
- ・ また、図面等膨大な紙資料のデジタル化による資料保管の省スペース化、デジタルデータの活用による検査業務等の高度化をめざす。

これまでの取組状況

- ・ 2025年4月から、建築確認申請等に係る手数料の支払いを行政オンラインシステム上で行えるよう環境を整備。
- ・ 2025年6月から、電子データ上で資料を審査するための機器等の発注を開始。
- ・ 2025年10月から、機器等を用いた電子データ上の資料審査を試行開始。



施策のめざす姿

- ・ 手続きのオンライン化・資料のデジタル化等により建築分野全体の生産性向上や業務効率化が図られていること。

評価指標又は活動指標

- ・ 2025年度まで：現行の行政手続きのオンライン化率
- ・ 2026年度から：オンライン手続き利用満足度

2025年度		2025年度末見込み	
対象手続きのオンライン化率 100%		対象手続きのオンライン化率 100%	
2026年度	2027年度	2028年度	
70%	26年度までの状況を踏まえて設定	27年度までの状況を踏まえて設定	

取組スケジュール

項目	2026 → 2027 → 2028		
	2026	2027	2028
手続きのオンライン化	市・国システムによるオンライン手続きの推進等	→	→
デジタル化及びその活用の検討	電子データ上の資料審査等実施	→	→

新・港湾情報システム「CONPAS」の導入による物流労働力不足への対応を推進

施策概要と効果

・大阪港では、道路上にコンテナターミナル入場待ち車両の滞留が発生することがあるため、国土交通省が開発した新しい港湾情報システム「CONPAS」※の導入に向けて、近畿地方整備局と阪神国際港湾株式会社とともに取り組み、コンテナ車両のターミナルのゲート前混雑の解消やターミナル滞在時間を短縮し、コンテナ物流の効率化と生産性向上等、物流2024年問題への対策を講じ、物流の持続的成長を図る。

・また、CONPASと自社システムを接続する事業者への支援や、阪神国際港湾株式会社と連携して専用携帯端末のドライバーへの貸与など、CONPASの利用拡大の取組も行う。

※Container Fast Passの略

施策のめざす姿

・CONPASが大阪港の全コンテナターミナルに導入され、ゲート処理時間やコンテナ車両のターミナル滞在時間の短縮などにより、コンテナ輸送の効率化や生産性向上等、物流2024年問題への対応を推進する。

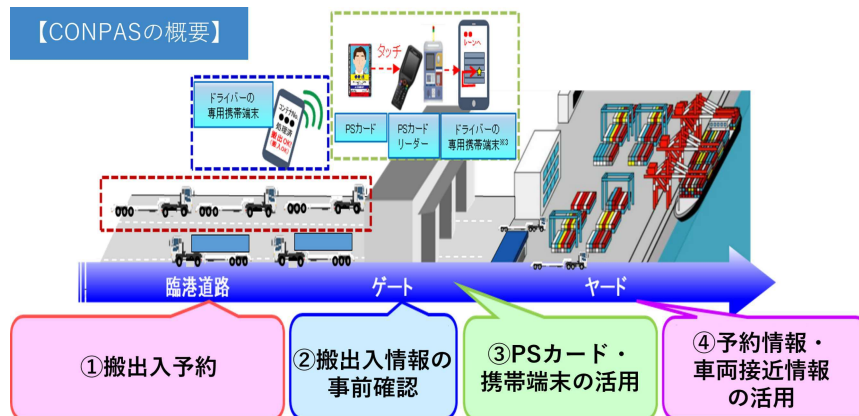
評価指標又は活動指標

- ①CONPAS導入ターミナルの拡大(累計)
- ②大阪港におけるCONPASの利用者の拡大

2025年度現在	—
2026年度	① 2ターミナル ② 利用者拡大
2027年度	① 前年度状況を踏まえ設定 ② 利用者拡大
2028年度	① 前年度状況を踏まえ設定 ② 利用者拡大

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
CONPAS導入ターミナルの拡大	2ターミナル	3ターミナル	5ターミナル
大阪港におけるCONPASの利用者の拡大	利用者の拡大	→	→



AR技術等を活用した体験型環境学習の実施

施策概要と効果

- ・本市がめざす2050年の脱炭素社会「ゼロカーボンおおさか」の実現に向け、脱炭素型ライフスタイルへの変革を促進するため、AR技術等を活用した環境学習・啓発を推進する。
- ・気候変動や生物多様性に対する興味や関心の向上を図り、脱炭素行動へと結びついていくよう、AR技術やVR技術を活用した体験型環境学習を小学校等で実施する。
- ・DXの推進と共に、市民の意識改革や行動変容を促進し、脱炭素型ライフスタイルの定着をめざす。

これまでの取組状況

- ・2023年5月からの小学校等でのタブレットを使った体験型環境学習の出前講座の実施や、2023年7月からのイベントへの体験ブース出展により、市民の意識改革や行動変容の促進に取り組んだ。



タブレットを使った体験型環境学習

施策のめざす姿

- ・ゼロカーボンへの機運が醸成され、市民の脱炭素型ライフスタイルの選択が積極的に行われていること。

評価指標又は活動指標

環境に配慮した行動を実践したい旨の回答割合

2025年度		2025年度末見込み	
95%		95%	
2026年度	2027年度	2028年度	
95%	95%	95%	

取組スケジュール

項目	2026 → 2027 → 2028 →		
	AR技術等を活用した体験型環境学習	前年に引き続き小中学校への授業や各種イベント等に出展の実施	新たな手法等も検討しながら引き続き実施する

AI等を活用し公共設計及び設計業務委託の予定価格の算出をより適正に

施策概要と効果

- ・ 公共工事及び設計業務委託の予定価格は多種多様な単価及び基準などを用いて積算するため、違算による入札中止、並びに入札中止に伴う再積算及び再発注を回避し、事業遅延による市民への影響及び職員事業負担増を軽減する必要がある。
- ・ そのため、積算システムの更新時期に合わせてAI等による違算防止や最優処分シミュレーションなどの機能を持つ新積算システムを構築し、設計担当職員の違算防止を図り、本市の都市インフラの機能維持・向上を遅滞なく進めることにより、安全・安心で快適な市民生活を提供する。

施策のめざす姿

- ・ AI等による違算防止により、入札中止や再発注による事業遅延
- ・ 職員の負担増を回避し、本市の都市インフラ維持及び機能向上を着実に推進することで、安全・安心で快適な市民生活を提供すること。

評価指標又は活動指標

2029年度のシステム運用をめざし、システム構築を実施。

2025年度現在	—
2026年度	システム構築業務委託の発注及び契約、システム構築
2027年度	システム構築
2028年度	システム構築完了

取組スケジュール

項目	2026	2027	2028
新積算システム構築	仕様書作成、構築	構築	構築完了
AI運用検討	生産性の向上手法の検討	効率的な運用の検討	→

